

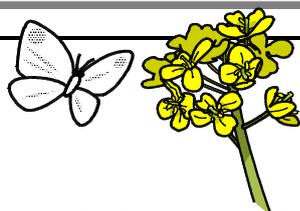
Coffee break



H30. 4. 10 (火)

桶売小学校長 本名 武

NO. 2



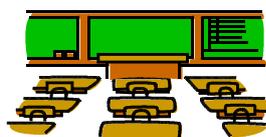
しみ込む「魔法の1週間」



平成30年度、子どもたちとの素敵な出会いができたこと、また、そのための準備等に感謝いたします。新年度は、どの子ども多かれ少なかれ「よーし、今年こそは！」という覚悟と構えを持っています。また、担当が新しくなれば「出会い効果」も生まれます。この好機に、先生方の学級によせる「こんな学級に!」という思いや願い、学級の約束・ルール・システム、学級の目標づくりなどの指導は、子どもたちの中に、スーッとしみ込んでいきます。しかし、この好機の有効期間は1週間ほど。所謂「魔法(黄金)の1週間」です。

学年始めの「魔法の1週間」の指導は、それぞれの学級の根となり、1年間生き続けます。子どもたちそれぞれの素敵な花を咲かせる大切な根の部分。ここを疎かにすると花どころか、逆に、差別・いじめといったマイナス面の目立つ学級になります。だからこそ、しみ込む魔法の1週間は大事なのです。まずは、学級みんなで、この学級をどんな学級にしたいか話し合い、それを掲げてみましょう。

平成30年度の「学級開き」、しみ込むうちに……。



気持ちのよい学級・子どもたち



居心地のよい「学級」の前提となるのは、今も昔も、「人のまちがい・失敗を笑わない学級」「友達の話を途中でさえぎらない学級」等々の「目には見えない」けれど、確かに存在している「大切な学級のルール」のある学級。学習や生活に大きく影響する「学級経営」の基盤になります。

気持ちのよい言動や受け答えが多いと感じる学級、分科などに入り、授業をしていて楽しいと感じる学級(学級経営がうまい先生)は、この部分を大切にしていると感じます。これら大切なルールを私たちは、どのくらい意識し、伝えているのでしょうか。これをしっかりと伝え、子どももそのことを大事にしているならば、生き生きと自分らしさを発揮しながら、気持ちよく学習や生活ができることにつながるものと感じます。QUTテストなどにもその傾向が現れると思います。

そこで、お読みになった方もいるかと思いますが、話題になった本を紹介します。

『みんなのためのルールブック~あたりまえだけど、とても大切なこと~』

著者は、2001年に「全米最優秀教師賞」を受賞したロン・クラーク氏(小学校教師)です。

彼が当時、教育困難校で教師をしていた際に、祖母から教えられた当たり前の礼儀・マナー等(例えば「大人の質問には礼儀正しく答えよう」「しかられている人の方を見ない」等々)を子どもたちに伝えていった結果、学業成績等が激変したといいます。本では短い50の「当たり前のルールやマナー」が載っています。学級みんなで「これを意識してやってみよう!」という内容もあります。年度はじめの学級経営の参考となる1冊です。

